

エアQ SPシングルユース

再使用禁止

SLF0051

【禁忌・禁止】

使用方法

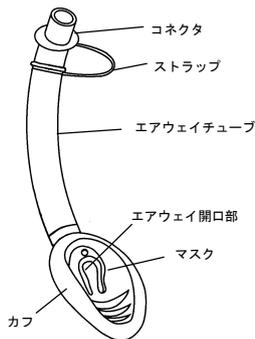
- ・再使用禁止

適用対象(患者)

- ・胃内容物逆流の可能性のある次の患者には使用しないこと。
[誤嚥性肺炎、気道閉塞等を起こすことがある。]
- a) 非絶食又は絶食未確認でフルストマックが予想される患者
- b) 病的肥満又は極度に肥満した患者
- c) 妊娠14週超の患者
- d) 多発又は大量の外傷のある患者
- e) 急性の腹部又は胸部外傷の患者
- f) 胃排出遅延の患者
- g) 絶食前にオピオイドを投与された患者
- ・気道内圧上昇が予想される次の患者には使用しないこと。
[カフのシールが耐えきれず、マスクが引き上げられてシール不良となり、ガス漏れ、胃の膨張、換気不十分等を生じるおそれがある。]
- a) 胸郭又は肺コンプライアンスが低い患者
- b) 気道抵抗が高い患者

【形状・構造及び原理等】

1. 形状



2. 材料

ポリ塩化ビニル

*3. サイズと適用患者及び挿入可能な気管内チューブ

サイズ	適用患者		開口部までの チューブ長さ	挿入可能な 気管内チューブ 最大サイズ
	体重	最小開口幅		
0.5	<4kg	8mm	7cm	4.0mm
1.0	4~7kg	11mm	9cm	4.5mm
1.5	7~17kg	14mm	11cm	5.0mm
2.0	17~30kg	17mm	14cm	5.5mm
2.5	30~50kg	20mm	16cm	6.5mm
3.5	50~70kg	23mm	18cm	7.5mm
4.5	70~100kg	25mm	20cm	8.5mm

4. 原理

本品は先端にカフを有する湾曲したチューブで、口腔から挿入し、下咽頭に留置することにより気道を確保する。カフとエアウェイチューブは連絡口により通じており、換気時のカフ内部は気道内圧に相当する圧力が生じ、シール性が担保される。

チューブ開口部は声門上に位置するので、本品を通して気管内チューブを挿管することができる。

【使用目的又は効果】

本品は、緊急時又は麻酔時における気道確保ならびに気管挿入に使用される。

【使用方法等】

1. サイズの選択

【形状・構造及び原理等】の「3. サイズと適用患者」の表を参考に、患者に適切なサイズを選択する。

2. 挿入及び留置

- (1) マスクの背面全体及びカフ周縁部に水溶性医療用潤滑剤（以後、潤滑剤とする）を塗布する(図-1)。

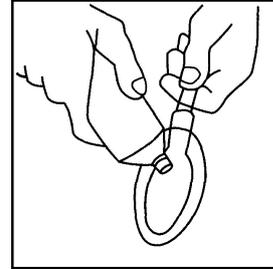


図-1

- (2) 患者の口を開き、舌を挙上する。こうすることで喉頭蓋が咽頭後壁から引き上げられ、咽頭に向けて通過させやすくなる。下顎の引き上げは特に推奨される。舌圧子を舌根に置いても同様の効果がある。
- (3) マスクの先端部を舌根と口蓋の間に、できれば少し前方へ傾けるように置く(図-2)。

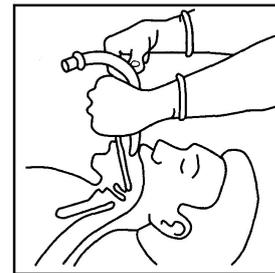


図-2

- (4) エアウェイチューブとマスクの湾曲形状を利用して、慎重に押し下げ、咽頭内を進める。さらに前へ進め、体内側に向けて円弧を描くように回転させる。上咽頭のカーブを通過する際、わずかに操作が必要となることがある。そのまま続けて前進させ、抵抗を感じたところで止める。この抵抗のためさらに進めることができないようであれば、適切に留置されたものと判断する。場合によっては、マスクの背後に左手手指を差し入れ、指を前方に曲げてマスクを咽頭の方へ誘導するとよい。方向転換がうまくできたら、左手で下顎を持ち上げ、その間に右手でエアウェイチューブを押し下げ、最終的に咽頭内にマスクを進める(図-3)。

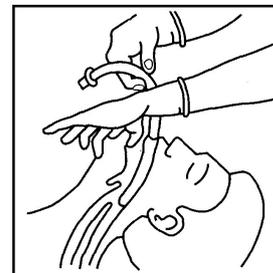


図-3

- (5) マスクが適切な位置に留置されていることを確認し、エアウェイチューブをテープで固定する(図-4)。

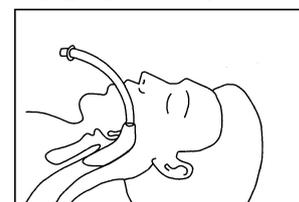


図-4

取扱説明書を必ずご参照ください

(6) コネクタがエアウェイチューブにしっかりと固定されていることを確認した後、呼吸回路等を接続する。エアリークがなく、換気が十分に行われていることを確認する。

3. 挿管

- (1) 挿管に先立ち、局所麻酔剤又は筋弛緩剤を噴霧し、喉頭筋肉組織系及び声帯を弛緩させておく。
- (2) 患者を酸素化する。
- (3) 本品に接続された呼吸回路等を取り外し、エアウェイチューブからコネクタを取り外す。
- (4) 適切なサイズの気管内チューブ(本品に含まれない)を選び、カフを脱気させ、潤滑剤を塗布した後、本品のエアウェイチューブ内に挿入する。挿入する長さは本品のサイズにより、およそ7~20cmとする(【形状・構造及び原理等】の「3. サイズと適用患者、チューブ長さ及び適合気管内チューブ」の項を参照)。この際、気管内チューブを上下させ、エアウェイチューブ内に潤滑剤を広げる。
- (5) 盲目的挿管を行う場合は、輪状-甲狀軟骨の周辺を指で軽く圧迫し喉頭口を押し下げ、気管内チューブを気管内に挿管する。挿管後、正しい位置に気管内チューブが挿管されていることを確認すること。
- (6) 気管内チューブのカフを膨らませ、呼吸回路等に接続する。十分な換気となっていることを確認する。

気管内チューブの挿管には、上記(5)の他、挿管用ファイバースコープ等(本品に含まれない)を使用する手法もある。以下に代表的なファイバースコープによる挿管方法を示す。

- ① 本品のエアウェイチューブ内に挿入済みの気管内チューブの内腔に、ファイバースコープを挿入し鏡視しつつ気管内に進める。
- ② ファイバースコープを安定に保ち、ファイバースコープをガイドとして気管内チューブを喉頭口から近位気管に誘導する。
- ③ ファイバースコープで気管竜骨を視認しながら、気管内チューブの位置を確認する。
- ④ ファイバースコープを抜去する。
- ⑤ 気管内チューブのカフを膨らませ、呼吸回路等に接続する。十分な換気となっていることを確認する。

4. 抜去

挿管後、気管内チューブを残して本品だけを抜去する際には、別売りの抜去用スタイレットを使用する。

- (1) 気管内チューブからコネクタを取り外す。
- (2) 気管内チューブの機器側端を示指と拇指で両側からつかむ。
- (3) 抜去用スタイレットのアダプタ部テーパ端を気管内チューブの機器側端開口部に、しっかりと合うところまで挿入する。
- (4) 抜去用スタイレットのアダプタを気管内チューブに押し込み、しっかりと固定する。この際、時計回りに回転させながら固定する。
- (5) 抜去用スタイレットを押さえて支えながら、本品をゆっくりと引き抜く。
- (6) 本品を抜去用スタイレットのロッドから完全に抜き去る。
- (7) 抜去用スタイレットのアダプタを挿入した部分のすぐ下で気管内チューブをつかむ。アダプタを反時計回りに回転させながら引っ張り、抜去用スタイレットを気管内チューブから外す。
- (8) 必要に応じて気管内チューブの留置位置を適切に調整し、テーパで止める。
- (9) 気管内チューブにコネクタを取り付ける。必要に応じてカフを膨らませ、呼吸回路等に接続する。十分な換気となっていることを確認する。

<使用方法に関連する使用上の注意>

- ・挿管時、気管内チューブのカフは完全に脱気させておくこと。[エアウェイチューブ内の通過に支障を来すおそれがある。]
- ・挿管時、気管内チューブは十分に潤滑しておくこと。[エアウェイチューブ内を容易に通過できないおそれがある。]
- ・ファイバースコープを使用して挿管する際、鏡視下で喉頭蓋の陥入又はdown-folding(倒れ込み)を認めた場合は、本品を完全に抜去せず、サイズにより約5cmあるいは7.5cm引き抜いた後、下顎を持ち上げて喉頭蓋を引き上げ、その状態で本品を再び挿入すること。[喉頭口が塞がれ、気管内チューブが挿入できない。]

・本品を潤滑すると、使用中にコネクタが外れることがある。チューブ及びコネクタに付着した潤滑剤は、使用を再開する前にアルコールで拭き取っておくこと。

【使用上の注意】

<重要な基本的注意>

- ・本品はジャクソンリリース回路との接続を意図した医療機器ではない。併用した場合に閉塞の危険性がある。
- ・本品を使用する場所の近くに鋭利なものを置かないこと。また、鋭利なものの使用は差し控えること。
- ・エアウェイチューブにコネクタが確実に取り付けられていることを確認すること。
- ・本品留置後は、かならず気道内圧、最高気道内圧、一回換気量、ETCO₂及びSpO₂等を監視することにより、カフのシールが適切でエアリークがなく、十分な換気が行われていることを確認すること。
- ・気道に問題が生じ、速やかに解決されない場合は本品を抜き、他の手段により気道を確保すること。
- ・本品を含め、喉頭上エアウェイ器具は誤嚥から患者を十分に保護するものではない。
- ・患者の頭頸部の位置を変えた場合は、エアウェイの位置及び開存性を再確認すること。
- ・本品はレーザーや電気メスにより引火の可能性がある。
- ・意識不明患者あるいは気道確保困難な救急患者では、誤嚥、逆流のリスクがある。これらの患者への使用は、気道確保を優先する場合にかぎることとし、慎重に使用すること。

<不具合・有害事象>

本品を使用する際には、次のような不具合又は有害事象が生じる場合がある。

1. 不具合

- ・カフの位置ずれ
- ・笑気ガスによるカフの膨張

2. 有害事象

- ・咽頭痛、喉頭痛
- ・誤嚥、逆流、嘔吐、嚥下障害
- ・気管支痙攣、喉頭痙攣
- ・口内乾燥
- ・不快感
- ・一過性声門閉鎖、気道閉塞、息こらえ、しゃっくり、せき
- ・喉頭蓋傷、喉頭、咽頭、口蓋垂、舌骨又は扁桃の外傷及び/又は擦過傷
- ・舌チアノーゼ、舌神経、声帯又は舌下神経の麻痺、舌肥大
- ・口腔潰瘍、咽頭潰瘍、喉頭血腫、頭頸部浮腫、耳下腺腫脹
- ・運動障害性構音障害(運動性発話障害)、嘔声、喘鳴
- ・披裂軟骨脱臼
- ・肺水腫
- ・膨満感
- ・心筋虚血、不整脈

【保管方法及び有効期間等】

<保管の方法>

- ・水濡れに注意し、直射日光及び高温多湿を避け室温で保管すること。

<有効期間>

- ・包装の使用期限欄を参照[自己認証による]。

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

■製造販売業者

株式会社インターメドジャパン
大阪市中央区道修町1-6-7 TEL: 06-6222-1951

■外国製造業者

クックガス
(Cookgas, LLC)
アメリカ

—製造販売元—

 株式会社 インターメド ジャパン